

高浜発電所1号機および2号機の60年までの運転に向けた
安全性向上対策工事の計画について

当社は原子力発電の重要性に鑑み、昭和45年に日本で最初の加圧水型軽水炉である美浜発電所1号機の運転を開始いたしました。

その後、地域のみなさまのご理解を得ながら、福島第一原子力発電所事故前には、関西の電気の約5割を福井からお届けできるに至りました。

当社がこの40年間、安定して、安価で、CO₂発生の低い電気を送り続けることができ、その間、2度のオイルショックもありましたが、原子力発電があったからこそ、関西経済あるいは日本経済が持続的に発展できたと考えます。これはまさに地元福井の皆さまのご理解の賜物です。

現在、平成23年に発生した福島第一原子力発電所事故を踏まえ、当社は二度と同じような事故は起こさないという固い決意のもと、継続的かつ自主的にさらなる原子力の安全性の向上に努めています。

また、国のエネルギー基本計画においては、原子力発電が将来にわたる重要なベースロード電源と位置づけられています。当社としても、S+3E（安全確保+エネルギーセキュリティの確保、経済性、地球環境問題への対応）の観点から、原子力発電は重要な電源であり経営の根幹として今後も継続的に推進し、40年以降の運転を目指すプラントを含めて、国により安全性を確認されたプラントは活用していく方針です。

高浜発電所1、2号機は原子力規制委員会より運転期間延長に係る許認可をいただいたことから、60年までの運転に向け、今回、安全性向上対策工事の計画を取り纏め、当社として実施することを判断しましたので、安全を最優先に責任をもって進めてまいります。

これまで予防保全対策として、蒸気発生器の取替えをはじめ、各種設備の改善や更新を積極的に実施するなど、発電所の安全性と信頼性の向上に努めてきましたが、今回の主な安全性向上対策工事としては、最新の知見を反映して安全性の向上を図るもので、格納容器の上部に遮へいを設置することや海水取水設備を強固な岩盤に付け替えることなどを計画しています。

また、高浜発電所1号機および2号機の40年以降の運転の必要性ならびに安全性について、県民の皆さまのご理解を深めていただきたいと考えており、福井県全域においてご説明の機会を拡大するなど活動の強化に努めてまいります。

今後とも、地元の皆さまのご理解を賜りながら、原子力発電の安全性をたゆまず向上させていくとの強い意志と覚悟をもって、原子力の運営を行ってまいります。

また、これまで40年以上にわたり、ここ若狭の地で原子力事業を営んでまいりましたが、今後とも地域に根ざした企業として若狭地域に貢献してまいりたいと考えておりますので、変わらぬご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

以 上